

## 無相文雄師の逸著

龜田次郎

## はし が き

古來學者の著述で、散逸に歸したものが澤山ある。時代の遠く離れた古い人のはいふまでもないが、比較的新しい人でも相當にある様である、今茲に紹介せんとする一書は、其後者に屬するものである。

漢字音の研究に、多大の力を盡して、其學界に幾多の貢獻と業績を遺した一世の音韻學者無相文雄師にも、今日逸書になつてゐる著作が大分あるのである。韻學史からばかりでなく、國語學史から見ても、又本邦に於ける支那語學史から云つても、決して忘るべからざる名著「磨光韻鏡」以下數多の著述を、世に遺した此一代の碩學の著書を探索して、世に顯はさんと、後進の自分は、鋭

意其拾得に力を致してゐるのである。

文雄師の著述は、已に其「磨光韻鏡」後篇に載せられてゐる門人文龍師の「無相上人傳略」に、

所選述凡五十餘部、或梓或未梓、或脫稿未脫、又嘗謂經論宏大、無其字典者闕焉也、撰釋門字統一百卷而沒遂不成也。

と見えてゐるのでも餘程あつたのはわかる。古くは、「諸家人物志」、「近代名家著述目錄」、「續日本高僧傳」、「佛家人名辭書」を初めとして、近くは、昭和五年六月開催された「追慕展觀會目錄」所載のものを見ても、まだ大分不明のものがある様である。自分は、先年、上記諸書に見えてゐない「九山八海解潮論并非天經或問」、「校定卷懷韻鏡」、「廣象棋愚解」の三部、而も其刊行本を獲得し

此等を未知の人に示したのである。就中後者については一昨夏本誌上に、其内容を、聊、紹介したが、今次、更にまた、茲に、近時新しく獲た「舍利功德章」の一書を掲載して、同好の士に知らしめる次第である。

本書「舍利功德章」は一卷である。内題も外題も共に同じである。上記の「追慕展觀會目錄」未見書中に、「舍利功德鈔」と見えてゐるものであらう。本書は、半紙型本で、每半葉九行、一行二十一字詰、全篇十一丁の一小冊子である。見返に

二月十五日

爲眞行院蓮譽妙安大姉菩提也

明鏡山三十八主

登 譽

と四行に捺印してあるし、卷末十一丁表の終に、また、少し細字で、

刻舍利功德章一卷財施主皇京山本弘慶居士荐祖先考妣  
英靈進慶壽昌冥福及以法界含識離苦解脫同躋覺位今置  
刻版于武府三緣山脩學場文庫流通於遐代

無相文雄師の逸著

弘化四年龍飛丁未十月佛成道日 正蓮社德眞識

とあるから、施本であつた事がわかるし、刊行の年月も知れる。同丁裏全部に、當時有名な文豪、勤王家梁川星巖の跋文がある。即、それは

一心一念一浮圖任是魚睛也寶珠八萬四千何造業等間做  
下死工夫 著衣喫飯是常時若問諸餘渾不知何待茶毗方  
始證大千界即一摩尼

星巖眞逸梁緯敬題<sup>①</sup>

である。次に本書卷初に、無相釋文雄僧谿述とあつて、其内容は、書名の示す如く、佛舍利の靈現を記したもので、文雄師が小田原に於ける實歴談なども示されてゐるが、佛徒としての師が、善男善女に説教的に述べられた所謂大衆向のものである。何等寸毫も師の學識を窺ふに足るものではない。元來、本書施本刊行の意味も、茲に存するかと思はれる。自分が、今、又、本書を本誌に掲載した所以も、佛教關係のものであるからである。昨夕編輯子から自分に對して、何か寄稿を促がされ、事急速に、原稿締切期日亦切迫のため、筆を奔らせて、一氣に

本篇を草し、以て本書を、茲に、紹介し、其實を塞いだ譯である。燕雜粗漏の點は、幾重にも寛恕を願ふ。自分は、今後、更に探索を遂げて、上記「追慕展觀會目錄」に未見とある。尙、他の「金剛寶戒眞偽辨」、「念西課問」、「韻學律正」、「古今括韻開合圖」、「廣韻開合圖」、「廣韻字府」の五部をも、一日も早く世に知らせたいと念じてゐる。此中、「念西課問」、「古今括韻開合圖」の二書については、前書「念西課問」は、「春臺文集」の「復文雄上人書」の中に

近於吾紫芝園、日從余遊、當時同學之僧數十輩、率能作詩、雄公輯其社中詩、曰念西課問、亦一盛事也。

とあるから、存在は確かであるし、後書の「古今括韻開合圖」は「淺草文庫書目解匙略」第二集第四字學音冊に

釋文雄撰ス、韻鏡、洪武正韻、五音集韻、古今韻會ノ四書、括韻開合ノ異同ヲ一圖ニ著ハシ人ヲシテ辨ジ易カラシム、卷末ニ刻韻選序例總目ヲ載ス、是モ亦文雄ガ撰スル所ナリ、僧郭ト云フモノ韻學ノ亂レタルヲ憾ジ、訂正韻選ヲ刻ス、文雄ガコレガタメニ選スル所ノ

序一篇、凡例十五則、四聲、配屬總目ノミヲ舉グ、寛延元年戊辰秋八月トアリ。

とあるし、佐村八郎氏の「國書解題」にも、同意の文が見えてゐるから、これ亦、何處かに存在すると思はれる。此兩書は、共に、寫本の様であるが、師の學識本領を知るに足る名著と思はれる。早く世に出したい事である。世の同好諸士も自分の此希望を遂げるに吝ならざる事に切に冀ふのである。尙「金剛寶戒眞偽辨」、「韻學律正」、「廣韻字府」の未見三書は勿論、以外の諸種の著述も追々と現はれて、此等を網羅集成、彙て、此一代の碩學の全集刊行の日の來らん事を期待してやまないのである。

# 舍利功德章

無相 釋 文雄僧谿述

287

夫佛舍利ハ、無佛世中ノ眞佛ニシテ、末代衆生ノ福田、無上ノ寶ナリ。眞言密藏ニハ、南方寶部ニ攝テ、摩尼  
此ニ如意  
ト翻ス。寶珠トス、今世後生ノ祈、何ノ願トシテカ不<sub>レ</sub>滿ト云コトナシ、道俗貴賤、誰ノ人カ歸嚮セザランヤ、一日客  
來テ云、世間ニ佛舍利甚多シ、尤尊ムベキコトトノミ心得テ、シカ<sub>レ</sub>ノ功德利益アルヲ不知、又イカナルヲ眞ノ佛  
舍利ト申スヤラン覺束ナシ、委ク教示シ玉フ書モ有ベケレド、在俗無眼ノ及ビ難キ所、願クハ簡要ヲ記シテ、ワレ人  
ノ看易カラシコトヲ憐ム、予熟ニ惟フニ舍利ノ功德深妙ニシテ、經論ニ散見ス、今其ガ一二ヲ探テ需ニモノセント、  
曰、舍利ハ梵語ナリ、又殺利羅<sub>ヲ</sub>ト云フ、駄都<sub>ト</sub>云フ、俱ニ梵語也、漢土ニハ本舍利トイフベキ物ナシ、此故ニ適對シ  
テ知ラスベキ名アルコトナシ、強テ翻譯シテ骨身トイヘリ、骨身ハホネナリ、是廣ク人間畜生ニ涉ルノ名ナレバ、舍  
利ノ翻名ニ叶ズ、故ニ竟ニ梵語ノマ、ニ呼ビ來レリ、是レ如來ノ身骨ニシテ恰モ珠ニ似タリ、在昔佛跋提河ノ邊沙羅  
林ノ間ニ、雲ガクレマシ、時、三明漏盡ノ羅漢達モ、ナク<sub>レ</sub>梅檀ノ煙トナシ奉リ、金剛不壞ノ佛身ヲ留メ、舍利  
ト爲テ、滅後ノ衆生ヲ利益シ玉フ、牙齒、佛眼、佛骨、髮毛、肉身ノ舍利、其種分レリ、聚ノ大、豆粒ノ大、米粒  
ノ如、芥子ノ如、又圓滿ナルアリ、扁ナル、壓ナル、長キ、稜アル、牙ノ形ナル有テ、其大小不<sub>レ</sub>同其色モ亦種種  
ニシテ、赤キ、黒キ、白キ、薄赤キ、黃ナル、紺瑠璃ノ色、淡青キ、紫ナルアリテ、玲瓏光澤ニシテ麗光アルアリ、

又光ナキモアリ、時トシテハ大光明ヲ放ツモアリ、此又一準ナラズ、大抵、堅キコト金剛ノ如ク、タトヒ鍔鏈ヲ以テシテモ碎ク事能ハズ、火モ燒コト不能、而レドモ亦一概ナラズ、佛舍利碎ケザルニモアラズ、衆生ノ業力ニ隨テ、碎ケヌル例ナキニモアラズト知ベシ、云云浴像經ニ曰、舍利ヲ供養恭敬セバ、十五種ノ功德ヲ得、一ニ清淨ノ念心ヲ得、二ニ順法心ヲ得、三ニ慙愧心ヲ得、四ニ如來ヲ親奉ルコトヲ得、五ニ淨信心ヲ發、六ニヨク正法ヲ持ツ、七ニ如說修行スルコトヲ得、八ニ諸佛ニ親近スルコトヲ得、九ニ諸佛ノ淨土喜ムニ隨テ到ル、十二ニ貴家ニ生テ諸人ニ敬重セラル、十一ニ人中ニ生テ念佛ス、十二ニ魔ノ侵擾ヲ不レ得、十三ヨク正法ヲ護持ス、十四ニ諸佛護念シ玉フ、十五ニ法身ヲ成就スト也、作佛像經曰、慈心ヲ以テ叉手シテ、佛舍利塔ヲ禮スル者ハ、命終ノ後、皆淨土ニ生ズト、寶悉陀羅尼經ニ曰、僧尼ヲ論セズ、晝夜ライハズ、淨不淨ヲエラバズ、舍利ヲ身ニ帶レバ、得ル所ノ功德無量ニシテ一切ノ罪業ヲ捨離シ、惡趣ニ隨セズ、善根ヲ生ジ、所作ノ業、皆佛行ニ同ジテ、涅槃ニ入ベシト、大般若經ニ曰、如來般涅槃ノ後、一粒ノ芥子バカリナル舍利ヲモ供養恭敬セバ、福ヲ護ンコト無邊ニシテ、人天ノ中ニ於テ勝妙ノ樂ヲ受、乃至最後ニ苦際ヲ脱ルコトヲ得ト、大悲芬陀利經ニ曰、我涅槃後、薄福衆生、コノ舍利ニ於テ、衆寶ヲ供養シ、一稱一禮シ、一華一香ヲ以テセバ、其求ル所ニ隨テ、舍利ノ珠ヨリ、金銀七寶ヲ雨シ、貪乏ノ衆生ニ與テ、安樂ヲ得セシメントナリ、悉ク舉ルニ違アラズ、總シテ舍利ハ、如來ノ遺身ナリ、無佛ノ世ニ生ルトイヘドモ、正眞ノ佛體ニ逢ヒ上ツルハ、是レ此舍利ナレバ、難遭ノ思ヲナシ、優曇華ニ値フ意持シテ、至心ニ禮敬セハ、二世ノ所願成就セズト云フコトナシ、等閑ノ看ヲナスコトナカレ、問テ云、功德甚深玄妙ナルコト承リ畢ヌ、唐招提寺南部西ノ京三千粒ノ舍利ハ、鑑眞和尚カンジンクワシヤウモロコシヨリ攜エ渡リ、泉涌寺平安東山ノ佛牙ハ、俊仍上人將來セリト。由緒傳來甚ダ分明ナリ、爾ルニ

今ノ世、信心ノ家、人ゴトニ佛舍利トテ三粒五粒ヲ念持セル輩多シ、惟フニ佛舍利ハ甚ダ稀ナルベシ、如來ノ茶毘  
 場ニテ、人・天・國王・釋種ノ人人、ワカチ玉ヘル時ダニモ、得ザル人天モ多カル、カノ速捷鬼偷ミ取りシヲ、韋駄  
 天追蒐トリカヘシ玉フトカヤ承ル、ワガ日本ハ天竺ニ隔タルコト遠シ、又佛滅二千七百有餘年ヲ過ギタリ、イカニ斯  
 バカリ佛舍利多カラムヤト云、余答テ天竺傳來ノ佛舍利ハ甚ダ稀ナルベシ、然ルニ舍利ハ、人々ノ信力ヨリ、分  
 生ズルコト限リアルコトナシ、又精誠ニ禱リテ、新タニ感得スルコト古今尠カラズ、佛像ヨリ感得シ經卷燈光ナドヨ  
 リ感得スルモアリ、モロコシ鍾離瑣ト云人ノ母、念持セル梅檀ノ佛像ノ眉間ヨリ、舍利迸リ出ト、佛祖統紀ニ見エ  
 タリ、道安法師、銅像ノ髻中ヨリ舍利ヲ感ズルコト高僧傳ニアリ、贛州ノ恭人ト云者、丈六ノ阿彌陀佛ヲ繡ニス、  
 其針ノ尖ヨリ舍利出玉フコト龍舒ノ淨土文ニ見ユ、潯陽ノ張須元ガ家ニシテ、道俗數十人、八齊戒ヲ受シ時、佛前ノ  
 花ノ上ニ、氷ノ如キ物アリ、近ヅキ見レバ舍利數十粒アリ、其後佛龕ヲヒラキテ佛牙ヲ得、又奩ノ中ヨリ十餘顆ノ舍  
 利ヲ得タリト法苑珠林ニ載タリ、本邦紀伊ノ國大河ト云處ハ、ソノカミ圓光大師歸洛ノ時、船ヲ寄ラレケル處ナレ  
 ベ、報恩講寺ヲ建、大師ノ靈像ヲ安置ス、コノ御像ノ目ヨリ、近年、舍利ヲ出シ給フ、華頂出知恩院、元祖前ノ燈明  
 ヨリ舍利ヲ感得ス、燈明舍利ト名ヅク、豐聰聖德太子ハ、生レナガラ、掌ノ中ニ舍利ヲ感得マシマセリ、嵯峨ノ清涼  
 寺ニ蛇尼ノ舍利アリ、ワガ寺平安京極錦<sup>ニ</sup>鬼女感得ノ舍利アリ、ソノ餘、舍利感得世ニ多シ、カク信心ヨリ感得シ、又  
 分ヨリ分ヲ復生シテ邊々、和漢ノ例シ、勝テ計フベカラズ、今ハ世間ニ盈滿テ、家家戸戸ニアランモ疑フベキニアラ  
 ジ、又問、アル人云凡テ生類ノ聲アル物ハ、其眼精堅カラズ、燒ケバ必ズ灰トナル、佛身モ人ト異ナルコトナシ、佛  
 眼ノ舍利トテ、堅キ玉アルコソ、イブカシケレト云人アリ、コノ義イカニ心得ベキヤト、答テ云、夫レ人ノ眼ハ水ノ

精ナレバ不<sub>ニ</sub>堅牢<sub>ナラ</sub>、サレト人ノ行徳ニヨリテ、眼精堅ク、舍利トナルコトアリ、宋ノ胡長ガ婆<sub>ババ</sub>、李氏ト云人、日夜高聲ニ念佛シ、彌陀經ヲ誦スルコト十餘年ニ及ベリ、死シテ後、火浴スルニ、齒ハ白玉ノ如ク、舌ハ紅蓮華ノ如ク、眼ハ葡萄<sub>ブドウ</sub>ニ似テ、悉ク堅クシテ舍利トナルト、雲棲ノ往生集ニ見エタリ、又舌モ骨ナキ物ニテ焚<sub>ヤ</sub>バ灰トナルナレド、羅什三藏、實又難陀、端裕法師ナド、茶毗ノ火中ニ、舌根壞セズト、高僧傳ニ詳ナリ、近世、顯譽祐天僧正、舌根舍利ヲ遺ス、吁、人身スラ既ニ如<sub>レ</sub>是、況ヤ佛身不可思議ナルヲヤ、平常ノ料簡ヲ以テ、乃至、佛身ニ疑念ヲ存スルコト勿レ、抑、舍利ノ神變奇特ナル、乍チ大トナリ、乍チ小トナリ、稜<sub>カク</sub>アルヲ轉ジテ圓クナリ、忽チ分ジテ數千粒ノ多キニ至リ、或ハ條チ飛失テ行方ヲシラズ、而シテ又忽チ本トニ還ルコトアリ、四天王寺南無佛ノ舍利、時トシテ飛去リ玉ヘバ寺務一舍利ニ舍利ヲ始メ、寺中ノ僧侶、肝膽ヲ碎キ祈請スレバ、五三日ニシテ、本ニ還リ給フコトゾ聞ク、其神變不測ナルコト、世間通途ノ道理ヲ以テ量ルベキコトナラズ、又問ラク、佛舍利ニ限ズ、所謂、人舍利アリ、或ハ津輕舍利ト云ハ、濱邊ノ石ナリトモ云、カクノ如キハ其功德更ニアルマジキニヤ、答テ云、嘗テ聞ク津輕ノ沖ニ、島アリ、嶋中ニ石像ノ釋迦アリ、其石佛ヨリ、日夜舍利ヲ湧出セルコト無量ナリ、海中悉ク舍利トナリ、其舍利、磯邊ニ打寄テ舍利濱ト名クトカヤ、然ラバ是モ亦佛身ヨリ出タル舍利ナリ、信心アラバ何ゾ功德ナカランヤ、今ノ世無佛ノ時ナレバ生身ノ佛體ヲ拜瞻スルコト能ハズ、畫像木像ヲ造リテ、至心ニ尊重スレバ、果シテ利益廣多ナルコト、眞佛ト異ナルコトナシ、是ヲ以テ惟ヘバ、眞ノ佛舍利ナキ所處ニハ、タトヒ人舍利土石ナリトモ、正眞ノ佛舍利ナリト思テ、禮敬セバ、即チ佛舍利ノ功德ヲ護ベキナリ、阿含經ニ若衆生有テ、舍利ヲ得ズンバ、舍利ノ名ヲ聞<sub>キ</sub>、若ハ畫キ若ハ砂<sub>イサ</sub>ナリトモ、是ヲ供養スル人ハ、功德正ニ等シト云リ、弘法大師ノ舍利儀軌ニハ、タトヒ砂ナリトモ若クベ木石ナ

リトモ、信ジテ舍利トセバ、ソノ功德異ナルコトナシト、興教大師ノ舍利和讃ニモ斯旨ヲ明セリ、貞享ノ頃、南都興福寺ノ傍ニ、一人ノ老婆アリ、興福寺ノ別院ニ佛舍利アリシヲ、ホシク思ヒテ、出入スル童ワラハニ便リテ、一粒モラヒテタベカシト云ニ、安キ事ナリト、ウケガヒテ、院主ニカクト告タルニ、世ニ大切ナル舍利ナレバ、叶フマジトアレバセンカタナク、舍利ニ似タル石一ツ拾ヒ來テ、取ラセケルガ、カノ婆、世ニウレシク、目モアヤニタフトミ、舍利塔ニ納メ念ゼシニ、ホドナク數粒ノ分、出來テ、塔ノ外マデ湧出マシマセリトゾ、是ワガ信力ヨリ、眞ノ佛舍利ヲ感得スルコト、木像ニ對シテ、眞佛ノ靈威ヲ感ズルニ同ジシ、問、舍利ヲ念ズルニハ舍利禮ヲヨムベキカ、又念佛シテ禮敬スベキヤ、答、イヅレモ宜シ、彌陀尊ノ名號ハ、萬德所歸トテ、一切經文ノ功德籠リマシマセバ、念佛中シテ自ラ舍利禮文ヨムニ同ジ、一向專修ノ行者ナラバ、念佛コソヨカラメ、問、舍利ハ堅固ニシテ、盤石バンシヤクモ碎クコト能ハズ、火ニモ燒ズ、水ニ入ルレバ浮ムトカヤ承ル、カクシテ、眞ト僞トヲ試ムベキカ、答、舍利ノ眞僞ハ、モト極テ知り難キコトナリ、天台大師ハ、法華三昧ヲ得、五品ノ位ニ昇リ給フナレバ、舍利ノ眞僞知リガタシト、梵網義疏ノ中ニノ玉ヘリ、今時ノ凡夫、イカデカ見分ルコトヲ得ン、只ヒタスラニ信ズベシ、ユメ／＼鍔ツル鏈ツルヲ下シ火ニ燒ナドスルコトナカレ、過罪ヲ得ンコト必セリ、恐ルベシ、又佛舍利ナレバトテ、碎ケザルニモ限ラヌコトナリ、可レ慎可レ敬問、滿靈山人ノ頭中ヨリ、舍利出現ス、アヤシムベキコトナガラ、大德ノ上人ナリ、老婆ガ信力ナレバ、佛舍利アラハレ玉フコトアルベシ、而ルニ上人妄想ナリトテ取敢玉ハヌハ傳德業イカナルコトナリヤ、答、ハカリガタシ、老婆モシワガ信力ヨクバコソ、カヤウナレト、慢心生セバ、應緣コ、ニ競ヒ起ラヌ、又上人コソ活如來ヨト觸ツレアリカバ、世人ノ誹謗ヲ招クコトモアリナント、カタ／＼深ク抑おさエトゞメ、コレ妄想ナリ、重ネテ語リナセソト、戒メ玉ヒケルナラン



サテ此上人モ、ヨク／＼舍利ノ功德ヲ人ニ説示シ給フコトアリシトカ、アル時法談シ中サレケルハ、予弱年所化ノ頃相州小田原ノ、或ル寺ニ夏間暮セシニ、同宿ノ僧、佛舍利一顆持ルガ、不圖疑ヒ起リ、鑊鎚ヲモ、打ワリテ試ミケルニ、アヘトナク碎ケテ微塵ニナリタリ、サテハ佛舍利ニテハナカリシモノヲト、紙ニネデ包ミテ、庭ニ擲捨タリ、シバラクシテ、下部ノ男門前ヨリ還ルトテ、拾ヒ取り來リテ、何ヤラン紙ニ裹ミタル物ヲ拾ヒシナリト悦ブ、カノ僧咲テ云、只今ワガ打棄タル、似セ舍利ナルハト云、カノ男ツク／＼見テ、碎ケタルニハアラデ、圓キ御舍利一粒ナリト云、人人打寄リ視ルニ、此ハイカニ微塵ニ碎キタル舍利、忽チ一ツニカタマリテ、圓滿本ノ如クニナリ玉フ、アラ不思議ヤト、サザメキケレバ、カノ僧モ後悔慙愧シケルトゾ語リ玉フ、イトアリガタシ、舍利ノ神變、瓦慮ノ測リ及ブベキ境ニアラズ、唯仰テ信ズベシ、努努疑ヒテナスコトナカレ、

## 舍利功德章

刻舍利功德章一卷財施主皇京山本弘慶居士荐祖先考妣英靈追慶壽昌冥福及以法界含識離苦解脫同躋覺位今置刻版于武府三緣山脩學場文庫流通於退代

弘化四年龍飛丁未十月佛成道日

正蓮社德眞識

一心一念一浮圖任是魚晴也寶珠八萬四千何造業等間做下死工夫 著衣喫飯是常時若問諸餘渾不知何待茶毗方始證大千界即一摩尼

星巖眞逸梁緯敬題